

よしかわICT教育通信

発行：R5.3 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課）

Vol. 19

ICTとは、Information and Communication Technology、つまり「情報通信技術」を意味します。
ICT教育は、教育現場で活用される情報通信技術そのものや、取組の総称です。

メッシュ ICT教材「MESH」で育てたい力とは？

小学校におけるプログラミング教育が必修化され、「プログラミング的思考」の育成が求められていることをVol.16で掲載しました。

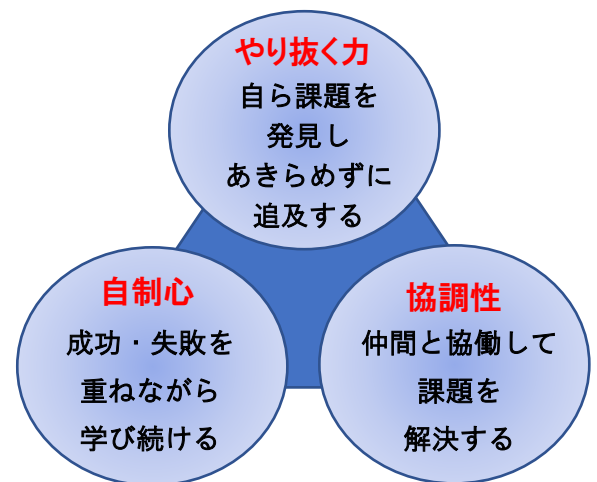
市では自ら課題を発見し、プログラミング的思考により解決につなげることは、市教育ビジョンが目指す3つの非認知能力の育成に大きく関わる活動と考えています。

そこで、市ではその活動を実施するために有効な教材としてSony「MESH」(右写真)を来年度から導入します。

MESHは児童生徒が使用しているタブレット端末との相性が良く、マイクやカメラ、メール等との連携ができるなど、活動の幅がさらに広がることが期待されます。(詳細は次ページ)

今後、MESHを教育委員会が管理し、各学校へ貸し出しすることで、学校における教育活動の様々な場面で活用してもらうことを想定しています。

＜市教育ビジョンが目指す3つの非認知能力＞



身に付けた力を他の活動へ

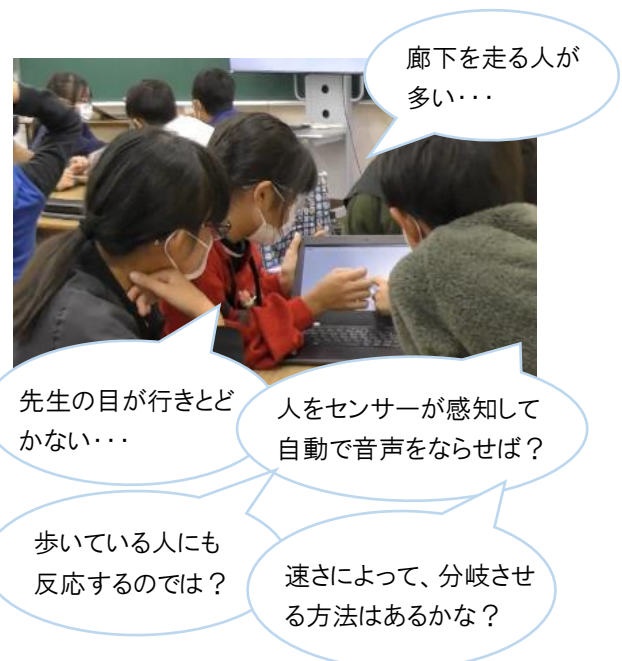
今年度、北谷小学校でMESHを試験導入したところ、「人の動きを感知し注意を促す」「発言者をくじ形式で選ぶ」など、身近に役立つ仕組みを児童生徒が意欲的に作る姿が見られました。

また、授業で作ったプログラムを他の活動でも活用し、身の回りの課題解決につなげた児童もいました。



他の活動での実践風景

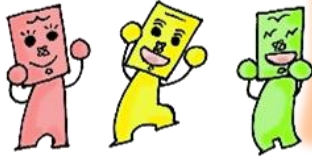
授業中に
作ったものを
他の活動にも
活かす！



ICT ちゃんとつかおう

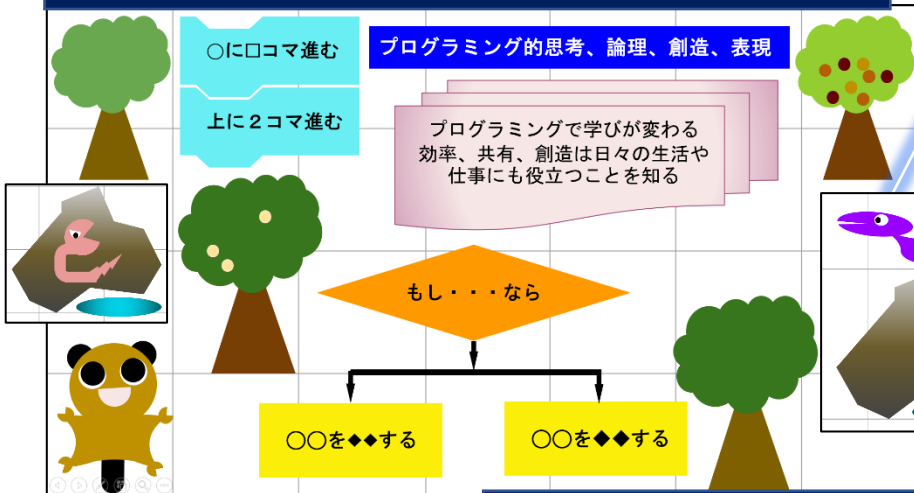
じゅつ 術

第19回 MESH(メッシュ)って何？ 何をするもの？



第16回ではプログラミング教育をテーマにしました。プログラマー育成が目的ではなく、プログラミングを体験することで物事を順序だてて考え、問題を見つけ、その解決の試行錯誤を繰り返す体験から、身の周りや社会の課題解決に向き合える力を育てることだとお伝えしました。その目的に向けてさらに深める素材を紹介します。

今、使われてプログラミング教材で行っていること



学校では、プログラミング教材を活用して、自分が考えるアイデアをスムーズに進めるにはどうしたらいいかの試行錯誤をします。それが問題をどう克服するかの倫理的思考や表現する創造力等につながります。

画面を離れ、身の周りや社会にその発想や姿勢を活かす

そうした学びをさらに自分たちの身の周りや社会に目を向けて、「あったらいいな」を具体的な実現につなげるツールが最近出ています。その一つがMESHです。消しゴム大の7つのブロックはセンサー等の各機能を持ち、それをつなげることでアイデアを具現化できます。右図は、目の不自由な人が自分で音楽鑑賞できる大学生のアイデア。

「自分たちが
解決する」
を形にする

